

## 令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・授業でプリントを使用したり、家庭学習の課題を設けたりすることにより、各学年とも基本的な計算力や数の性質への理解が身に付いている。
- ・タブレットを活用するなど生徒の活動を工夫することにより、数学に対する興味関心が高まったと考えられる。

#### (2) 課題

- ・問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返ったり、考察を深めたりする過程に課題があると考えられる。授業を通して、既習の内容を基に数量や図形の性質を見だし、考察し、活用していく力を養っていく必要がある。
- ・身の回りの事柄を、数学を用いて解決する姿勢を身に付けられるよう、タブレット等のICT機器を有効に活用していく必要がある。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎・活用ともに目標値を上回った。	/	/
第2学年	基礎・活用ともに目標値を下回った。	基礎・活用ともに目標値を上回った。	/
第3学年	基礎・活用ともに目標値を上回った。	基礎・活用ともに目標値を上回った。	基礎・活用ともに目標値を上回った。

#### (2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	概ね目標値は上回っているが、分数や比の式、場合の数の組み合わせの問題に課題がある。	図形について、特に平面図形の知識の定着が図られている。	授業に取り組む姿勢は良い。算数や数学に苦手意識がある生徒の家庭学習が定着しておらず、改善を促す必要がある。
第2学年	目標は上回っているものもあるが、1次方程式や比例式の計算問題で目標値・全国正答率ともに下回る結果になり、基本問題の定着に課題がある。	全体的に目標は上回っているものの、データの分析の傾向に関する問題に課題がある。	授業に取り組む姿勢は良いものの、授業内のテストや定期考査の結果は二極化になっており、自らの課題を解決する姿勢を改善していく必要がある。

第3学年	概ね目標は上回っているが、1次関数の問題、特に1次関数のグラフがx軸に平行な方程式についての理解に課題がある。	全体的に目標は上回っているが、三角形の合同の証明に課題がある。	授業に取り組む姿勢は意欲的で良いが、自分が間違えた問題を振り返ったり、家庭学習で苦手な問題に繰り返し取り組んだりすることに課題のある生徒が多い。
------	---------------------------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------------------------------------------

### 3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	授業内で小学校の復習から理解度を再確認し、プリントや小テストを用いて知識の定着を図る。	ICTや模型を用いることで、平面図形の理解をさらに深め、空間図形の理解にも努めていく。	習熟度別授業において、各コースの課題に応じて伝える力を養うために、協働学習を積極的に取り入れていく。
第2学年	授業中のプリントや小テストを用いて知識の定着を図る。また、不定期で計算問題のテストを実施し、繰り返し問題を解く習慣を身に付けさせる。	習熟度別少人数学習を活かし、習熟度に応じた適切な問題を選び、学び合い活動の中で相手に自分の考えや解き方を伝えることを練習させることで知識を深め、また多様な考え方を身に付けさせる。	協働学習を積極的に取り入れ、互いに学び合える環境をつくる。定期的に数学が苦手な生徒を対象に補習を実施することで、基礎・基本の定着を図り、成功体験を積み重ねて意欲的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。
第3学年	授業中にプリントなどを用いて問題演習を繰り返し行うことや、総復習の問題集を活用し小テストを行うことにより、基礎基本の定着をより一層図っていく。	問題の答えの求め方の学習だけでなく、解き方の根拠を考えたり、他者に説明したりすることを授業の中で丁寧に取り組んでいき、理解を深めていく。	習熟度別少人数学習を活かし、自分の考えを説明したり、互いに教え合ったりすることで、意欲的に学習に取り組ませていく。さらに問題を理解し解けた時の達成感を積み重ねていく。